

山口県立山口博物館所蔵幕末維新関係資料ガイド5

山 田 稔

**Yamaguchi Prefectural Museum Collection of Bakumatsu Ishin related materials guide 5**

Minoru YAMADA

山口県立山口博物館研究報告

第50号(2024年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.50(March 2024)



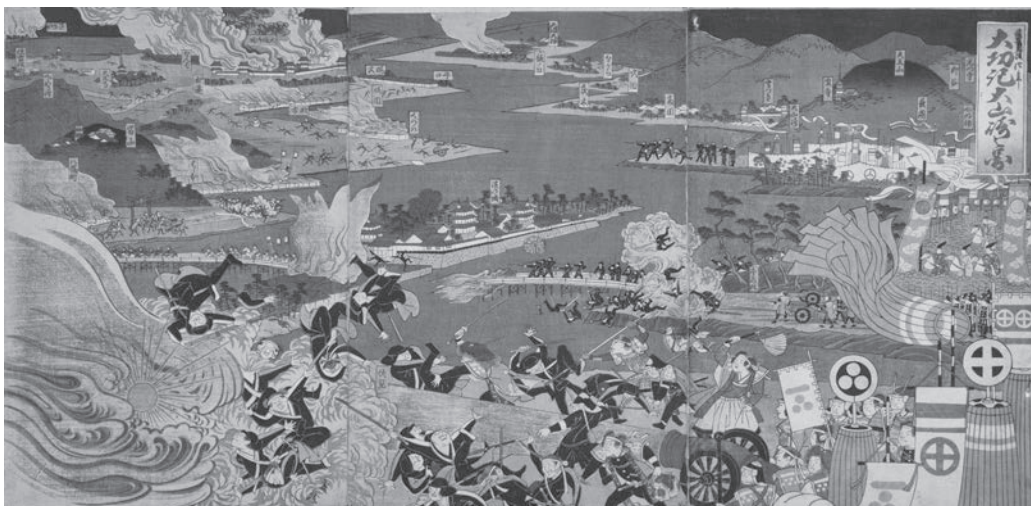
## 山口県立山口博物館所蔵幕末維新関係資料ガイド5

山田 稔<sup>1)</sup>

### Yamaguchi Prefectural Museum Collection of Bakumatsu Ishin related materials guide 5

Minoru YAMADA

本稿は、明治150年を期に、山口県立山口博物館所蔵の幕末維新関係資料ガイドを意図して執筆したものである。前稿(『山口県立山口博物館研究報告第49号』(2023.3))に続く第5稿として、展示や出版物掲載等で利用頻度が高い資料17点を選び、図版と解説を付した。



#### 130 大功記大山崎之図

明治時代

1枚(3枚1組)

36.0×72.5 920-1

慶応4年(1868)1月の鳥羽伏見の戦いを描いたもの。画面手前に旧幕府軍を攻撃する薩長軍とその後退却する旧幕府軍勢のほか、左奥には炎上する大坂城が見える。

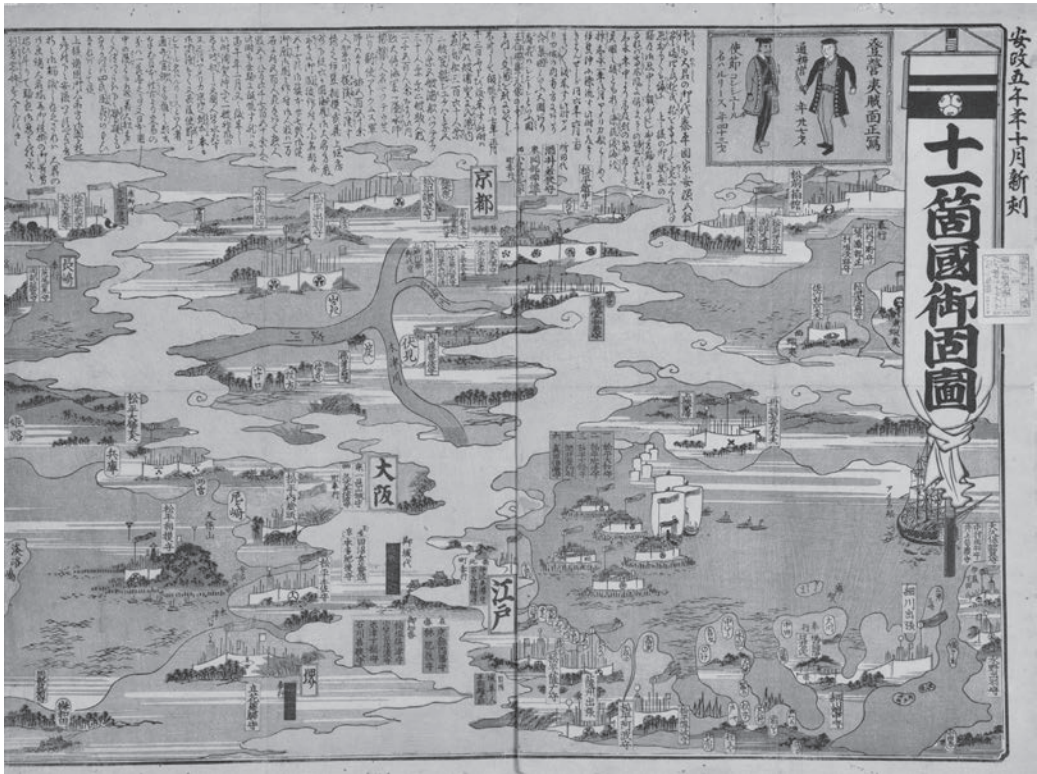
1) 山口県立山口博物館(歴史)

## 目 次

No	資料名	制作者	年代
130	大功記大山崎之図		明治時代
131	十一箇国御固図		安政5年(1858)10月
132	泰平中国御固附		元治元年(1864)秋
133	明治維新の大業成り誠忠の諸將に賞を賜う図	長谷川貞信	明治時代
134	汐留ヨリ横浜迄鉄道開業御乗初諸人拝礼之図	三代歌川広重	明治5年(1872)
135	東京高輪鉄道蒸気車走行之全図	一曜斎国輝	明治時代
136	憲法発布式之図	楊洲周延	明治22年(1889)
137	環海詩誌草稿	杉孫七郎	明治37年(1904)7月
138	久坂天籟遺稿撰録	吉田松陰	安政5年(1858)4月17日
139	松菊図	長三洲	明治42年(1909)5月26日
140	木戸孝允写真		明治5年(1872)
141	木戸孝允写真		明治5年(1872)4月
142	木戸孝允墓碑拓本・墓所写真		明治40年(1907)11月23日
143	木戸松子写真	丸木利陽撮影	明治時代
144	丸形古銅器 付文書		元治元年(1864)2月3日 文久3年(1863)12月
145	伊藤博文宴遊之図	赤沢松琴模写	昭和9年(1934)11月
146	萩・松下村塾	香月泰男	昭和38年(1963)

## 凡 例

- 一、記載項目は、資料名/筆者・制作者/制作年代/品質・形状/員数/法量/整理番号/解説、の順である。
- 一、法量は、原則として本紙・本体のもので、単位は、センチメートルである。
- 一、人名は、時期による名乗りの違いや変名などがあるが、記述の煩雑を避け、一般に通用しているものを使用した。
- 一、2015年NHK大河ドラマ特別展図録『花燃ゆ』、明治150年記念特別展図録『激動の幕末長州藩主毛利敬親』、『山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―幕末維新編一』（山口県文書館、2010）に掲載されている資料の解説は、各図録に拠った。



131 十一箇国御固図

安政5年(1858)10月

1枚

38.0×50.0 920-81

江戸幕府が諸藩に命じた江戸、大阪、京都、長崎など警衛の配置を描いたもの。

長州藩は、それまでの相州警衛を解かれ、安政5年(1858)6月から文久3年(1863)3月まで兵庫一帯海岸の警衛を命じられた。図中の「松平大膳大夫」は13代藩主毛利敬親。画面右上にアメリカ総領事ハリスと通訳ヒュースケンの像がある。



132 泰平中国御固附

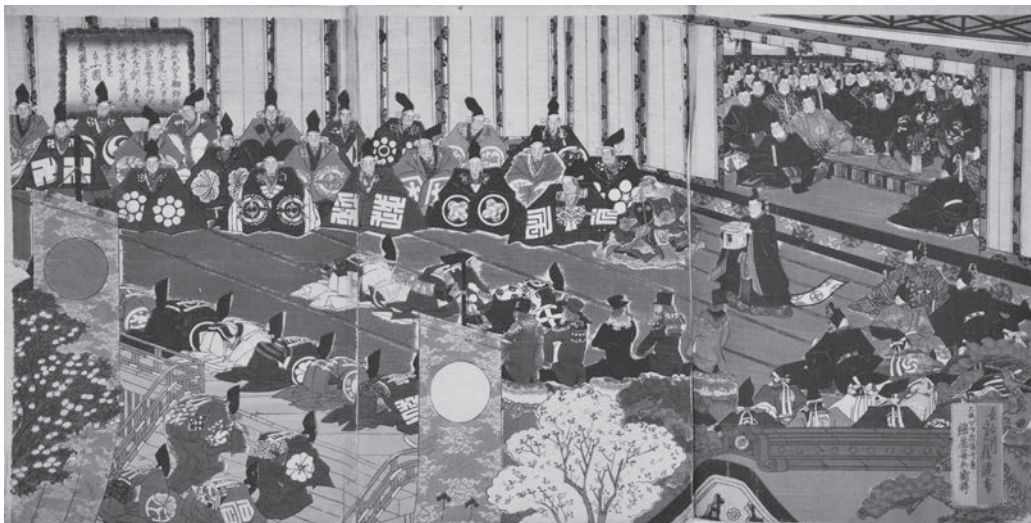
元治元年(1864)秋

1枚

25.8×38.0 920-58

元治元年(1864)の第一次長州征討における征討軍の配置を描いたもの。長州藩側の長府・岩国は一  
 国一城令で破却されており、図のような城郭はない。なお、本図には同じ構図の瓦版が発行されている。





133 明治維新の大業成り誠忠の諸将に賞を賜う図

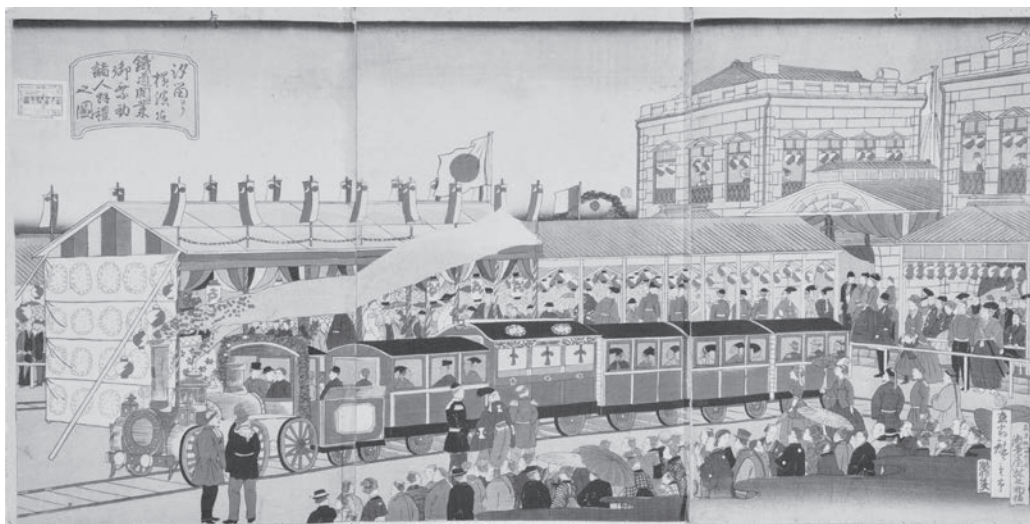
長谷川貞信

明治時代

1枚(3枚1組)

37.5×74.0 920-40

薩摩・長州・土佐の藩主をはじめ維新に功績があった諸侯が、天皇より賞として杯を下賜される模様を描いたもの。諸国公使も列席し、外には日月の錦旗が高々と掲げられている。



## 134 沙留ヨリ横濱迄鉄道開業御乗初諸人拝礼之図

三代歌川広重

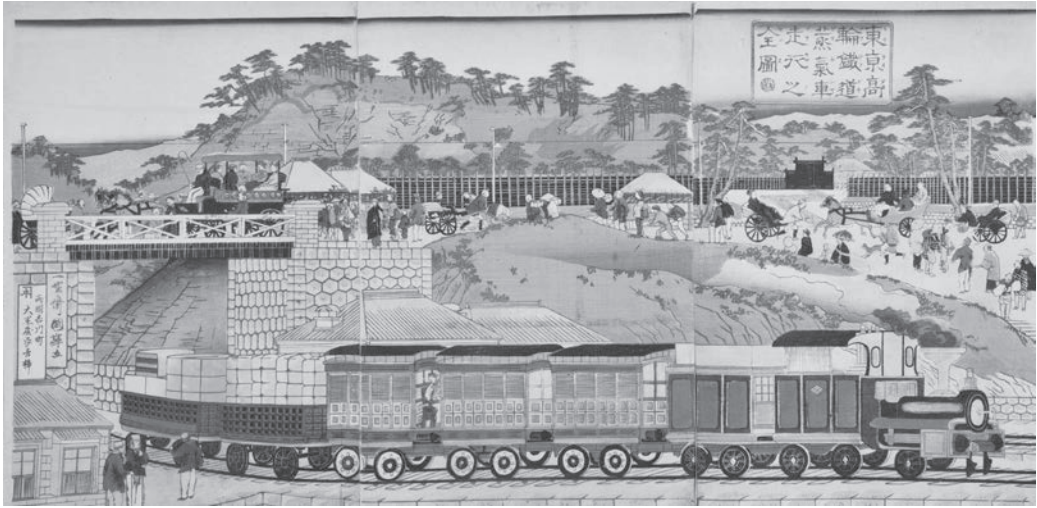
明治5年(1872)

1枚(3枚1組)

37.3×74.0 920-18

明治5年(1872)10月14日(旧暦9月12日)、新橋駅(後の汐留駅)～横浜駅(現・桜木町駅)間で日本初の鉄道路線が正式開業した。明治天皇と建設関係者を乗せたお召列車と駅舎や見物人たちの模様を描いたもの。文明開化の象徴の一つであった鉄道は、錦絵の題材として盛んに取り上げられた。作者の三代歌川広重は、開花錦絵を代表する浮世絵師。





135 東京高輪鉄道蒸気車走行之全図

一曜斎国輝

明治時代

1枚(3枚1組)

36.8×74.1 920-27

明治5年に開通した新橋～横浜間の鉄道走行の様を描いたもの。絵師は東京名所図会などの開花錦絵を多く描いた2代目歌川国輝。



## 136 憲法發布式之図

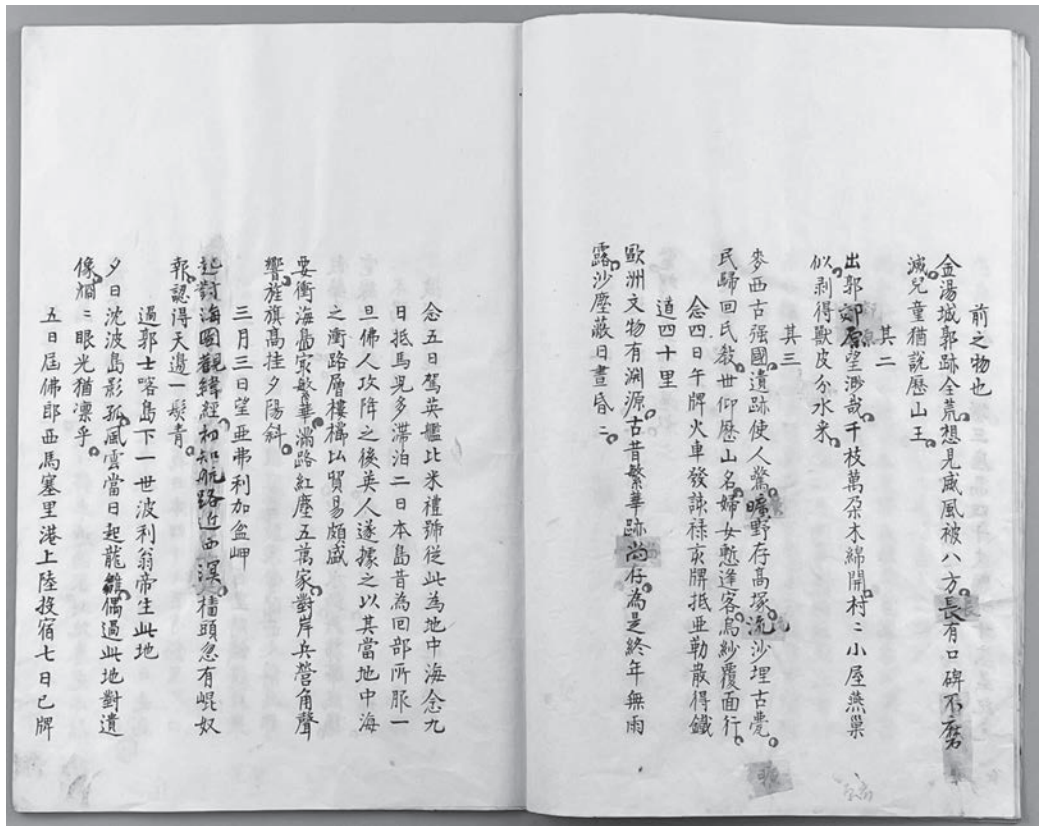
楊州周延

明治22年(1889)

1枚(3枚1組)

37.0×73.0 920-28

明治22年(1889)2月11日、大日本帝国憲法發布式の様子を描いたもの。明治宮殿の正殿において、明治天皇が内閣総理大臣黒田清隆へ憲法を授与している場面。天皇の右側には洋装の皇族の女性たちが、同左側には各国公使が描かれている。

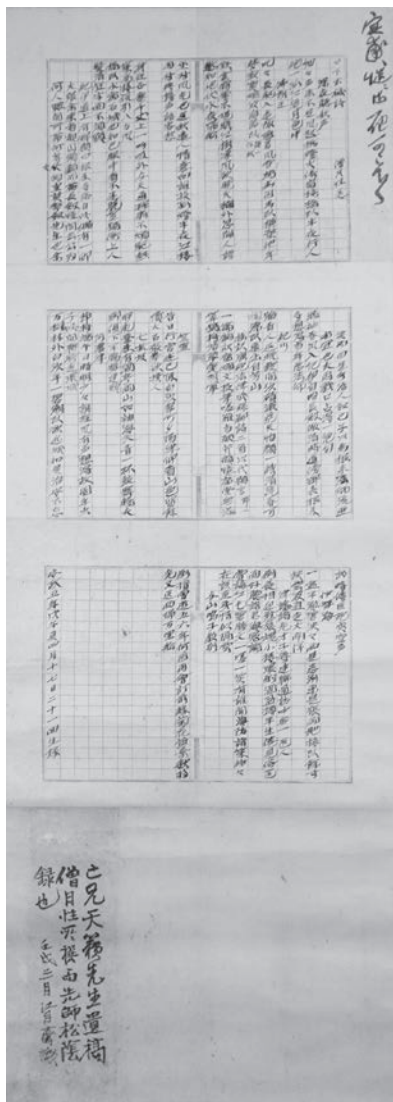
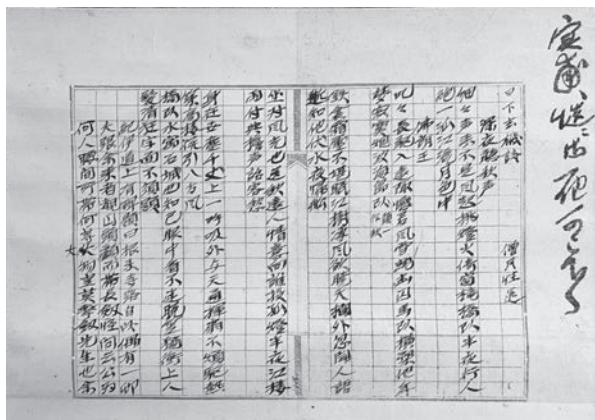


137 環海詩誌草稿

杉孫七郎  
 明治37年(1904)7月  
 1綴  
 28.1×20.1 杉6-34

「環海詩誌」は、文久元年(1861年)に幕府遣欧使節団随員としてヨーロッパ各国を視察した萩藩士杉孫七郎の旅行記。文久元年(1861)12月江戸出航後から、同2年(1862)12月横浜に帰港するまでの各所で詠んだ漢詩文等を収録。帰国後には、江戸桜田邸で周布政之助、桂小五郎、高杉晋作、久坂玄瑞、井上馨らと歓談し一献傾けたと記している。

本書はその草稿で、表紙に「明治卅七年甲辰七月校正」と記され、末尾に「吞鵬杉重華」の奥書がある。杉家伝来品。明治37年刊行。



138 久坂天籟遺稿撰録

吉田松陰

安政5年(1858)4月17日

1幅

89.5×32.5(189.0×47.3)

4紙合装 福本4

久坂玄瑞の兄・玄機(号・天籟)の遺稿から僧月性が撰び、松陰が録したもの。久坂玄瑞の識語に「亡兄天籟先生遺稿僧月性所撰而先師松陰録也 壬戌三月江月齋識」とある。冒頭欄外に松陰が「実甫(久坂玄瑞)へ慥二御届可被下候」と記している。『吉田松陰全集』(大衆版)第8巻54・55頁所収。





## 139 松菊図

長三洲

明治42年(1909)5月26日

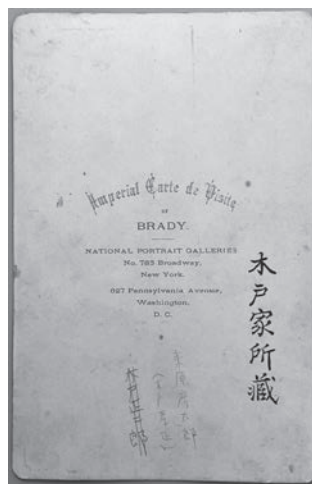
紙本墨画

1幅

116.0×34.0(181.7×46.5) 木戸21

長三洲(1833~95)は、豊後国(大分県)日田郡馬原村出身の勤王志士、官僚、書家、漢詩人。広瀬淡窓の咸宜園に学び、詩・書・画等を能くした。尊王攘夷の志士と交わり、国事に奔走。戊辰戦争で越後口征討軍参謀として西園寺公望、山県有朋らとともに従軍。同戦後は、山口藩議政局書記を勤め、木戸孝允らとともに脱隊騒動を鎮圧。明治5年(1872年)、大学少丞に任じられ、明治学制の中心的な起草者となる。明治12年(1879年)、官を辞して文書画の道で余生を送った。木戸家伝来品。





## 140 木戸孝允写真

明治5年(1872)

1枚

15.2×10.4(16.7×10.8) 木戸52-2

岩倉使節団留学生の来原彦太郎とニューヨークで撮影。来原彦太郎は、長州藩士来原良藏と治子(木戸孝允の妹)の長男。木戸孝允の養嗣子木戸正次郎の死去に伴い木戸家を嗣いだ。東宮侍従長兼式部官、宮中顧問官式部官兼閑院官別当、貴族院侯爵議員。なお、本写真には東京・小川一真写真店の大型複写版(29.7×20.8、木戸52-13)がある。木戸家伝来品。



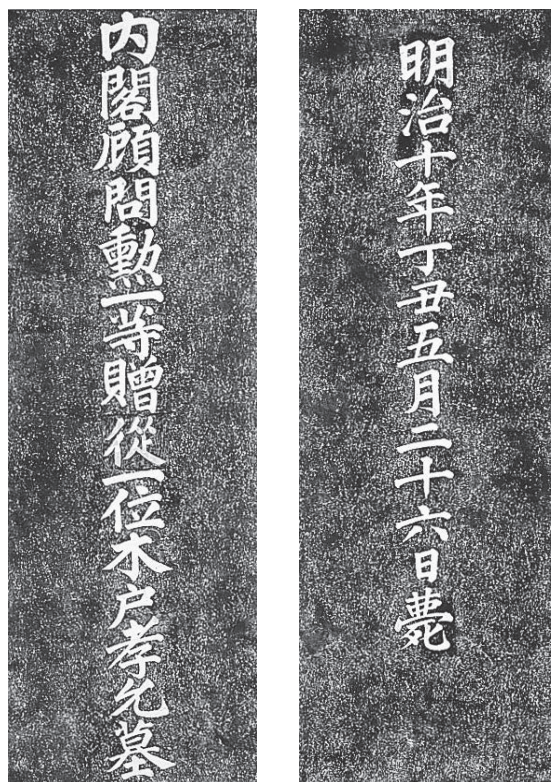
141 木戸孝允写真

明治5年(1872)4月

1枚

14.7×10.2(16.6×10.4) 木戸51-5

明治5年(1872)4月、ワシントンで撮影。『松菊木戸公伝』下巻口絵掲載。木戸家伝来品。



142 木戸孝允墓碑拓本・墓所写真

墓所写真／明治40年(1907)11月23日

墓碑拓本 各165.6×55.4(192.8×71.5)／墓所写真 各22.4×27.4(36.2×43.8) 木戸19・58

京都・霊山墓所にある木戸孝允墓碑の拓本と明治40年当時の墓所風景。墓所写真の台紙に「R.Narui 京都成井」の刻印がある。木戸家伝来品。





143 木戸松子写真

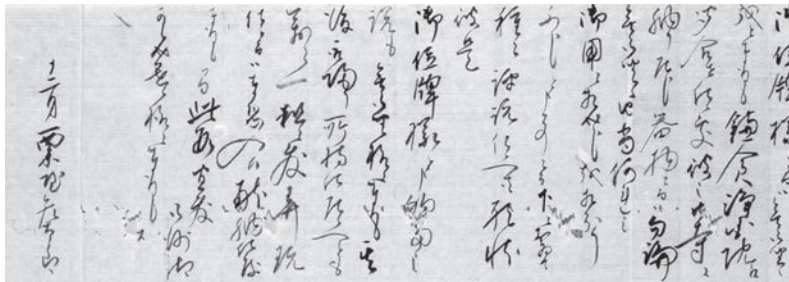
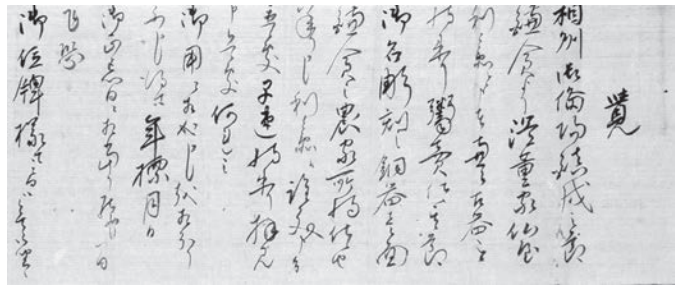
丸木利陽撮影

明治時代

1枚

30.0×18.2(32.8×18.8) 木戸55-2

大礼服姿の木戸孝允夫人・松子。木戸家伝来品。



覚

相州御備場鎮戍之節、鎌倉より滑董家仏屋利兵衛と申者兼々古器を持来り商売仕候其節御名彫刻之銅器老面鎌倉之農家所持仕候由承り申し候利兵衛之詮儀申付置候処、早速持来たり拝見申上候処、何れ之御用ニ相成申候も相分り不申候得共、年標月日御正忌日ニ相当り居申し候間、乍恐御位牌様共ニテハ無御座候哉と奉存候、鎌倉浄国院之聞合せ仕候処、彼之御寺ニ納り居申候器物ニテハ勿論無御座候由、尚何れ之御用ニ相成申候哉相分り不申候と申事二付、下ニ於て種々評説仕候へ共形状彼是御位牌様と申之當之説も無御座様ニ奉存候、其後取帰り所持仕居候へとも万々一粗々敷弄玩仕候てハ奉恐入付献納仕度奉存候間、此段宜敷御沙汰可被成遣候様奉存候、以上

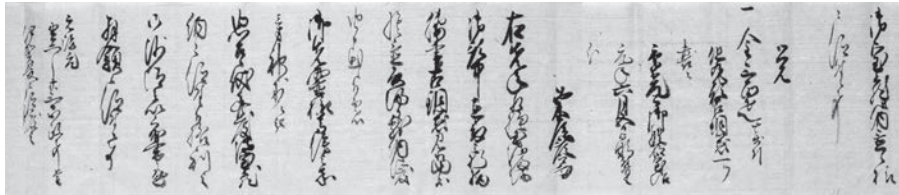
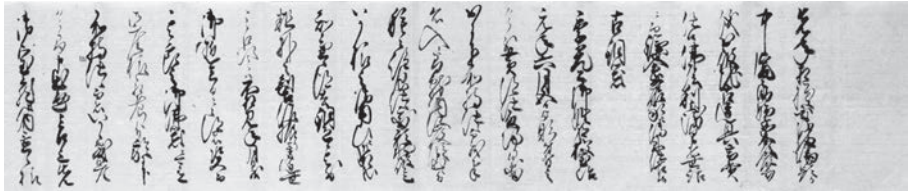
十二月 粟屋彦太郎

144 丸形古銅器 付文書

元治元年(1864)2月3日/文久3年(1863)12月  
2通  
15.0×136.0/14.3×81.5 910-23

No.41 「丸形古銅器」の来歴と藩の取扱いを記した文書。幕末、長州藩が相州警衛についていた際、出張していた藩士粟屋彦太郎が鎌倉の古道具商から入手し、帰国後に藩へ献上を申し出た。藩では、来歴や用途など不明な点があるが、そのまま放置もできず、先祖尊信の志が神妙であるとして粟屋に褒美を与え御宝蔵に納めたことがわかる。毛利家伝来品。





先年相模国御備場預り中、虎之助嫡子栗屋彦太郎儀於彼地古道具商買仕候。仏屋利兵衛と申者世話にて鎌倉御家来二御成仕節候古銅器季光公御姓名於宝治元年六月五日と彫付有之候分買得仕取歸り候処、於尔下所持仕候ても奉名入候間、献納仕度段申出候付、種々詮儀仕候処、形状彼はいか様之御用ひニ相成哉知兼候得共、銅包其外粗掛之製作振り旁近世之品とハ不相見、年月日も御逝去日ニ候得は、決て其節之御仏器ニ可有御座様ニ相考候付、於尔下所持仕候てはいかが敷御座候間、申出通被召上先御宝藏之納置候様被仰付候事

覺

一金三百疋 七步引

但、丸形古銅器一ツ

裏二

季光公御姓名宝治元年六月五日と彫付有之分

栗屋彦太郎



丸形古銅器

右先年相模国御備場御預中、在番之折柄腰書古銅器見当不捨置取歸り献納仕度由申出候付ては、御先靈様尊信之志旁神妙ニ被思召候儀と此度御宝藏納被仰付候付、格別之御沙汰を以御面書之拝領被仰付候事

元治元寅二月廿三日於政事堂伊賀殿被仰渡之



#### 145 伊藤博文宴遊之図

赤沢松琴模写

昭和9年(1934)11月

40.0×132.7(46.5×139.0) 610-8

明治14年(1881)8月、下関滞在中の伊藤博文が、東行庵の梅処尼庵主と稲荷町の料亭金福楼で酒宴を催した際の様子を描いたもの。本図は、画家赤沢松琴(赤沙堂)が模写したもので、事の経緯や内容について識語に詳しく記している。原画は下関の絵師山中月洲。

ちなみに、『郷土物語 第二十輯(下関の巻)』(昭和12年、郷土史研究会)所収「郷土画家彫刻師小伝」山中月洲の項に、本図にまつわるエピソードが紹介されている。

伊藤公宴遊之圖

明治十四年八月伊藤博文公官旅之途次下関、來、滞在、偶々東行庵主梅處尼來り訪り談明治維新前ノ往事、及ヒ感慨無量ナルモノ、如シ公忽然起テ庵主ヲ伴ヒ稻荷街大阪屋前ノ料亭金福樓ニ登リ酒杯ヲ命ス、其ノ席ニ侍スルモノ老妓數輩ト樓主起テ舞ヒ且ツ踊ル、芸妓モ亦々盛ニ管絃唱和シテ興極リナレ時、繪師月洲ヲ呼ビ宴遊ノ實況ヲ描カシメ更ニ其興ヲ添フ是レ實ニ公舊誼ヲ顧慮シテ梅處尼ヲ慰安シタルモノナリト云フ此画、其ノ記念トシテ今尚其地ニ存ス舞踊ノ曲ハ樓主ガ一本鎗トシテ有名ナル薩州鹿兒島軍十郎踊ニシテ圖中席ニ在ルモノハ伊藤公梅處尼及ビ樓主福田伊之助執事後小雛老妓小宇乃同お仲お光常吉中席ニ侍スルモノハ伊藤公梅處尼及ビ樓主今其大要ヲ叙シ以テ見ルモノ、参考ニ供スト云爾

時維昭和九年十一月 長門府中住 赤沙堂誌

伊藤公宴遊之図

明治十四年八月、伊藤博文公官旅之途次下関ニ來リ滞在ス、偶々東行庵主梅處尼來リ訪フ、談明治維新前ノ往事ニ及ヒ感慨無量ナルモノ、如シ、公忽然起テ庵主ヲ伴ヒ稻荷街大阪屋前ノ料亭金福樓ニ登リ酒杯ヲ命ス、其ノ席ニ侍スルモノ老妓數輩ト樓主ナリキ、宴酣ニシテ樓主起テ舞ヒ且ツ踊ル、芸妓モ亦々盛ニ管絃唱和シテ興極リナシ時ニ繪師月洲ヲ呼ビ宴遊ノ實況ヲ描カシメ、更ニ其興ヲ添フ、是レ實ニ公旧誼ヲ顧慮シテ梅處尼ヲ慰安シタルモノナリト云フ、此画ハ其ノ記念トシテ今尚其地ニ存ス、舞踊ノ曲ハ樓主ガ一本鎗トシテ有名ナル薩州鹿兒島軍十郎踊ニシテ圖中席ニ在ルモノハ伊藤公梅處尼及ビ樓主福田伊之助芸妓小雛老妓小宇乃同お仲お光常吉（中野小三郎姉）ニシテ繪師ハ林月洲（月儂門人ニシテ當時田中町二住ス）ナリ、今其大要ヲ叙シ以テ見ルモノ、参考ニ供スト云爾

時維昭和九年十一月 長門府中住 赤沙堂誌（印）



146 萩・松下村塾

香月泰男  
昭和38年(1963)  
クレヨン、墨  
19.0×27.0 香月12

画家・香月泰男が『新人国記・山口編』(朝日新聞連載)のために描いた挿絵の一つ。県立山口博物館には本画を含めてNo.1「山口県の略図」からNo.22「たこ・ふぐ」まで22点の原画が所蔵されている。